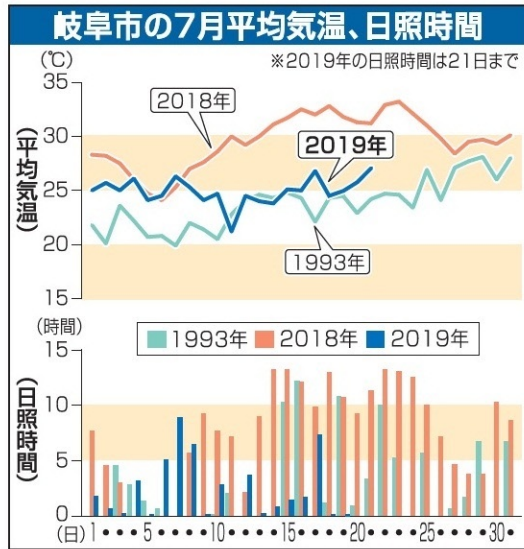




梅雨寒、野菜出荷に影響

県内 ☀ 待ってます

県内は7月下旬に入っても、平均気温が低めで日照時間が短い梅雨寒が続く。7月の岐阜市の日平均気温は低く、日照時間は短く、記録的な冷夏に見舞われた1993年と同水準だ。県内の農作物や小売店で影響が出る一方、恩恵を受ける業種もあり、天気同様に反応はさまさま。夏本番には程遠い曇り空が広がる中、梅雨明けを待ち望む声が聞かれた。

岐阜地方気象台によると、22日現在、岐阜市の7月の日平均気温は24・9度で、平成以降では93年の23・8度などに次ぐ低水準。日照時間は45・5時間で、今後晴れ間に恵まれても93年の87・6時間に匹敵する少なさとなりそうだ。日照率は15%で、93年の20%よりも低い。

梅雨寒の影響は、県内の農作物や小売店に出始めている。JA全農岐阜によると、管内生産のナスの出荷量は6月で前年比64%まで落ち込んだ。トマトも着色が遅れて減少傾向にあり、

8月以降に出荷数が少なくなる恐れがあるという。園芸販売課の小竹繁樹さんは「天候が極端すぎる」と気をもむ。

日照不足は、近年普及が進む「緑のカーテン」にも影響している。岐阜市長良福光の岐阜メモリアルセンターでは、県内の農業高校生が5月に植えたパッションフルーツのつるが網に届いていない状態。センター施設課の鹿嶋純子さんは「高校野球や大相撲夏巡業などのイベントが続くので天気が特に気になる。梅雨が明けて緑のカーテンが出来上がるといいのだが」と空を見上げる。

岐阜市神田町のそば店「武蔵野本店」では、冷やし中華の注文が伸びない。店主の片桐美周さん(63)は「例年、朝の仕込みが暑くて大変。今年は、涼しいのはありがたいが、拍子抜けだね」と苦笑する。

一方で恩恵もある。岐阜市日ノ出町の岐阜高島屋によると、夏物衣料の売り上げは前年比10

〜15%減だが、傘などの雨具は10%増。猛暑の昨年とは打って変わって、グラタンなどの温かい総菜が売れ、おでんは前年比1・5倍だ。

県内でコインランドリーを展開するJAランドリーでは、7月の乾燥機の利用回数は22日時点で前年比約1・5倍。家で洗濯した衣料品を持ち込む客が多いという。

岐阜地方気象台によると、23日以降は晴れの予報が続くそう

(大堀瑠美)